

大分県 国東圏域 総合水産基盤整備事業計画

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

国東圏域は県の北東部に位置し、国東市と離島の姫島村があつて、総人口は28,225人である。漁業人口の割合は、姫島村が4.9%、国東市が0.8%で、県平均の0.4%に比べかなり高くなっている。

平成14年に県内のすべての漁業協同組合が合併して大分県漁業協同組合となり、域内には、5つの支店がある。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

域内では、瀬戸内海西部に位置した伊予灘において、はえ縄以外のその他の釣り(域内漁獲量の17%) 刺し網(13%)、採貝・採藻(21%)、などの漁業が営まれている。主な漁獲物は、現在の漁獲量が多い順にヒジキ144トン、タコ類110トン、タチウオ73トンであるが、いずれも漁獲量の減少が著しく、漁船漁業全体の漁獲量はピークの昭和57年、8,460トンの8%にあたる698トンまで落ち込んでいる。姫島村ではクルマエビ養殖が盛んであったが、近年は疾病に苦しみ生産量は低迷している。

姫島では古くから「漁業期節(期節定め)」として、漁法を季節的に制限しており、資源を管理しながらの漁業に継続して取り組んでいる。また、域内全体でタチウオ等の資源回復に取り組んでおり、休漁日の設定や体長制限を行っている。このほか、藻場の保全、海底耕うん、藻類養殖の推進にも努めている。

種苗放流にも積極的に取り組んでおり、令和2年度には毎年アワビ4万個、マコガレイ7万尾、カサゴ1万尾、子持ちタコ壺150個等を域内各地へ放流している。

③ 水産物の流通・加工の状況

漁獲物は地元の産地市場や仲買への出荷・販売が中心であるが、タチウオやマダイ等については県内市場はもとより九州、関西、関東地方の都市圏市場へも出荷されている。加工は域内には大規模なものはないが、マダコを天日で干した干しダコがある。また、姫島では、養殖クルマエビを液体急速凍結加工して販売している。

④ 養殖業の状況

姫島ではクルマエビ養殖が盛んで令和2年の生産量は122.4トンであるが、生産量を増大するためには、ウィルス対策が課題となっている。また、国東市では、平成26年度からカキ養殖を試験的に開始し、輸出も含め販路開拓に取り組んでいる。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

域内の組合員数は、正272名、准184名の計456名で、高齢化や資格審査の厳正化等により減少傾向が続いており、5年前のおよそ89%となっている。現状の減少率で推移すると令和8年には417名ほどに減少するものと考えられる。

⑥ 水産業の発展のための取組

国東市では、漁協、市、民間企業が、シングルシード養殖したマガキを「くにさき OYSTER」として全国のレストランに出荷するほか、ふるさと納税の産品にしている。今後、販路の拡大を目指している。また、東国東漁業青年協議会では、ヒジキ増殖の取り組みとして、建材ブロックを設置してヒジキ母藻を確保して、移植する活動を行っている。

また、姫島村では水産加工センターにレトルト殺菌装置や3Dフリーザー等の新たな高性能の加工機器を整備した。今後は、常温商品や鮮度を保持した冷凍商品等の新たな土産品を開発し、6次産業化を更に推進する。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

圏域内の水産基盤整備については概ね完了したが、施設の老朽化が著しいことから、水産物の安定的な供給体制が整っていない。

併せて、漁獲量の減少が著しいことから、生産力を底上げし水産資源を増やすために、餌料を増やす増殖礁や成育場を増やす藻場造成などの漁場整備が必要である。

また、この圏域で重要魚種であるカレイ類、クルマエビなどは、生活史が広域にわたっているため、近接海域を含めた広い海域で生活史に対応した漁場整備を推進する必要がある。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	生産力向上型	設定理由；ブランド化に積極的に取り組み、実績を上げており、水産物の生産・供給の強化を図っている地域である。
② 圏域範囲	国東市及び姫島村からなる国東半島東部地域	設定理由；東国東水産振興協議会の参集範囲。
③ 流通拠点漁港	該当なし	設定理由；
④ 生産拠点漁港	該当なし	設定理由；
⑤ 輸出拠点漁港	該当なし	設定理由；

(輸出取扱量：令和元年度、その他：令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	698	圏域の登録漁船隻数(隻)	384
圏域の総漁港数	18	圏域内での輸出取扱量(トン)	-
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	2		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量（収穫量）(トン)	
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点等の機能強化

漁業者の減少や高齢化が進んでいることから、施設整備による軽労化対策を進め、産地の生産力強化を目指す。

②養殖生産拠点の形成

該当なし。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に対応した漁場生産力の強化

漁獲量の減少が著しいため、沿岸の基礎生産に重要な藻場の維持・拡大を図る藻場の造成を行うとともに対象生物の生態を把握した上で生活史に対応した増殖場を設置することによって生産力の底上げを図り、水産資源の増大を目指す。こうした整備を行うに当たっては、モニタリング等で効果を検証する必要があり、ハードとソフトが一体となった効率的な取り組みを行う。また、種苗放流や資源管理の取り組みを継続していく。

②災害リスクへの対応力強化

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

圏域内の漁港において既存ストックの有効活用を図るため、プレジャーボートの受け入れの場として活用する。

②女性など多様な担い手の活躍

安岐漁港の浮棧橋の設置など圏域内の漁港において女性や高齢者など多様な担い手が活躍できるよう、就労環境の改善対策を進める。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点等の機能強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
	流通機能強化	港整備	安岐	2	

安岐漁港では浮棧橋の整備を行うことで流通の機能強化を図る。

②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に対応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
大分県伊予灘	資源管理	水産環境

国東地区では増殖場の整備とあわせて、休漁日の設定と体長制限などの資源管理を一体的に行っている。

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点

②女性など多様な担い手の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
	就労改善	港整備	安岐	2	
	就労改善	港整備	竹田津	2	
	就労改善	港整備	内迫	1	
	就労改善	港整備	西浦	1	
東浦	就労改善	機能保全	東浦	1	

安岐漁港では浮棧橋の整備、その他の地区では機能保全による老朽化対策を行い、担い手の就労改善を図る。

4. 環境への配慮事項

漁港整備で発生する残土については、沖合の漁場造成にあてることにより、環境への負荷を軽減させる。

5. 水産物流通圏域図

別紙のとおり

5. 水産物流通圏域図

